

## 災害対策調査特別委員会請求資料 調節池・下水整備について

### 1 調節池の整備について

東京都では、平成26年6月「東京都豪雨対策基本方針」を改定し、豪雨対策の目標値を時間75mmと定め、それに基づき調節池等の整備を行っている。板橋区周辺においても、代表的な調節池として白子川地下調節池や城北中央公園調節池の整備が進められている。

#### (1) 白子川地下調節池

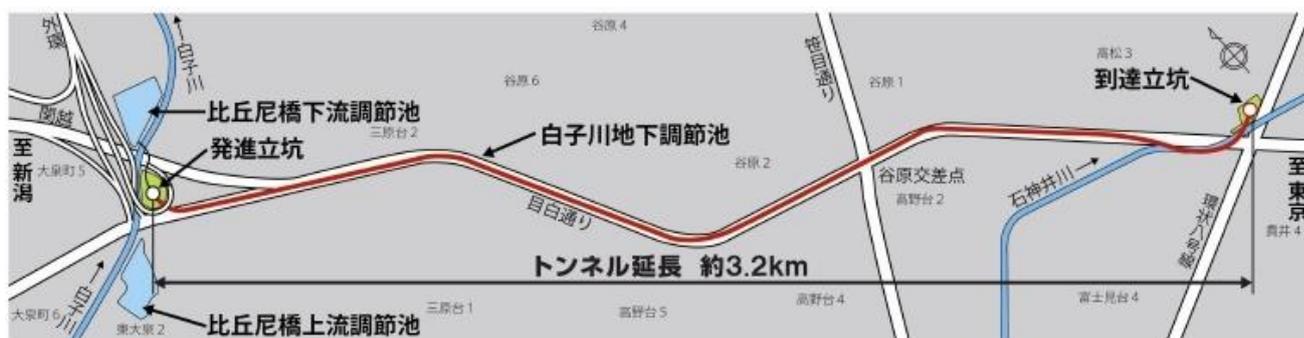
区間：白子川～石神井川

事業期間：平成3年～平成30年7月（平成29年から取水開始）

形式：地下トンネル式

トンネル概要：内径10.0m、深さ46.5m、延長約3.2km

貯留量：212,000立方メートル



#### (2) 城北中央公園調節池

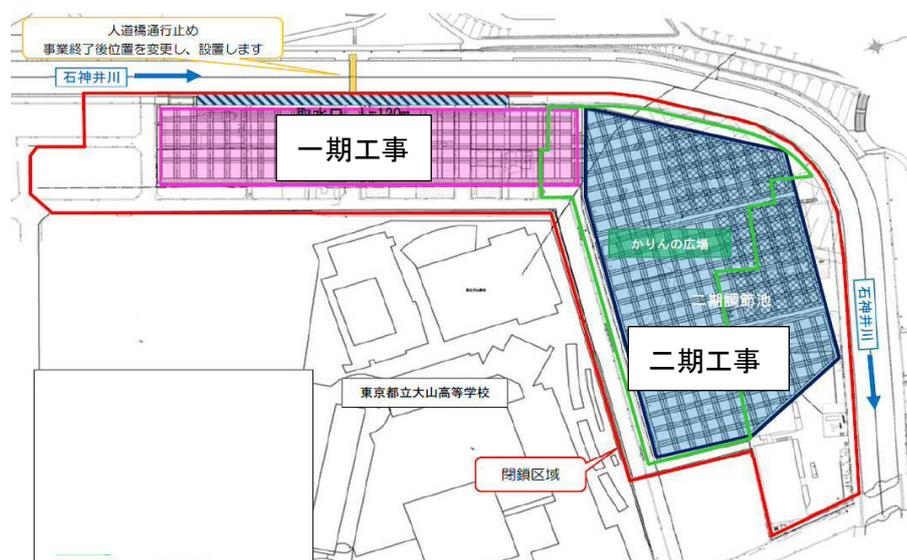
事業着手：平成28年度

工事着手：平成30年度（令和6年度完成予定）

貯留量（一期工事）：90,000立方メートル（二期工事）：160,000立方メートル

形式：地下箱式

※二期工事は令和7年度以降着工予定



## 2 下水整備について

### (1) 区内の下水整備状況

「東京都豪雨対策基本方針」では、目標値である時間 75 mm を達成するための各対策の役割分担を下表のとおり定めている。

豪雨対策目標値		各 対 策	対 策 内 容
時間 75 mm	時間 50 mm	・ 下水道整備 ・ 河川整備	公共下水道整備 河川の護岸整備等
	時間 15 mm	・ 下水道整備 ・ 一時貯留施設 ・ 調節池等	下水幹線の増強整備 一時貯留施設の整備 河川における調節池整備
	時間 10 mm	・ 流域対策	浸透ますの設置など流域 における雨水の流出抑制
目標達成期間		平成 26 年から、おおむね 30 年後	

板橋区では、区内の公共下水道整備、河川整備は概ね完了しており、降雨量に対する時間 50 mm 対応の達成率は、ほぼ 100% である。しかしながら、以前から浸水被害の発生が著しい地域への抜本的な対策については、現在検討中である。

### (2) 下水整備における浸水対策

浸水対策を進めるための下水整備には以下の手法が用いられている。

- ① 下水道の流下能力を高めるための老朽化した下水道管の再構築整備。
- ② 現在の下水幹線に新たな幹線を増設する幹線増強の整備。
- ③ 集中豪雨時の浸水対策に効果を発揮する一時貯留施設の整備。

### (3) 下水道局への浸水対策対応

区内の浸水被害が発生しやすい地域においては、以下のとおり下水道局に対し協議を継続している。

#### ① 成増幹線の浸水被害対策

成増地域においては、下水道局による成増幹線の増強施設のルート検討を進めている。この整備計画は、「東京都下水道事業経営計画 2016」にも掲げられている。

#### ② 中丸町周辺の浸水被害対策

下水道局に対し、具体的な方向性の提示と事業計画立案のための検討を要望している。